

論説 女人歩道

人は一生は重荷を負って過ぎた道を行くが如し、と徳川家康が訓を述べたが、進んで歩むべき道に重荷を負って進むのを、成長するにつれて、体力も増強されるが、人物が責任を背負う領域は、その責任の重なるに伴って、重荷も増加し、四十歳を過ぎると、人は老衰の道を歩むことになる。...

飯塚宗像会参拝

六月十五日、飯塚宗像会の会員十四名が参拝し、初日の陽が輝き、青葉の風が薫る中、整列した一行の陣は、今年久留市の氏神さまにお参り出来たと、喜びが溢れていた。...

宗像 大社 七月 祭

一、一日 月次祭 午前 10 時
一、五日 末社祇園祭 午前 11 時
盛夏に農耕の繁榮を祈る祭、風雨の順調と馬等の害のないように、祇園の神「天王さん」に祈る中、旬たなはた揮毫會の日曜日、郡内小、中生が当日淨書して獻する。

七月の交通訓

○安全運転 家族が安心

宝物館造園工事始まる

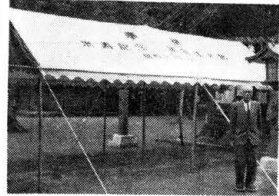
既に通り、当宝物館工事は、先ず建物完工したが、用地が出たのままであるため、陸上自衛隊大隊の奉仕作業により、埋立工事を二月間完了した。...



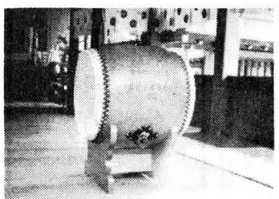
飯塚宗像会が、宝物館の造園工事、陸上自衛隊大隊の奉仕作業により、埋立工事を完了した。...

特信者の奉納続々

中津宮参りの際、佐賀の三太夫、神楽屋分など、大島村藤島浅水氏より夫々御製のみ、大太鼓、テント等が奉納された。...



中津宮参りの際、佐賀の三太夫、神楽屋分など、大島村藤島浅水氏より夫々御製のみ、大太鼓、テント等が奉納された。



神書聖地大祭に参加され、藤多の藤木区氏は、神書に真神を信託した。...

社務日誌抄

- 五月二日 宝物館埋立工事 完了
一日 月次祭行
二日 責任役員会開議
三日 門前老人クラブ五十名参拝
...

宗像大社御用 綜合印刷 大和印刷所 宗像郡宗像町東郷 電話 27 番

★前号までのあらすじ
天文前、天下騒乱の時、周防の大内隆盛は後良田武佐吉平に譲り、専ら逸楽に耽る。これに對して家臣の諷諭は、派に不睦な形がある。
一方、大内を後継と頼む筑前守家康も、家中に微妙な動きが見られ、隣國との抗争の間に宗像大社司の交替が行われた。...

割烹旅館 川口屋 玄海町役場前 電話 神湊 四八番

宗像四郎貞貞 山下半可 作 福田長庵 画

永島意之助翁米寿祭

宗像郡教育界の長老永島意之助翁の油彩肖像画であった。...



明来の雨に... 欠席者はたの二名と... 開会の辞... 丸健家氏祝詞... 宗像郡教育界の長老永島意之助翁の油彩肖像画であった。

「彼さんよ、よう燃えな...」 「ほんのこっちゃ、燃えな...」 「うん、あれは、終戦の年じ...」

米国短歌集

去る五月十二日手紙で米国の... 「みち(未知)のひびき」...

宗像大社 夏まつり... 宗像郡体育大会... 宗像町青年団...

町村往来... 宗像町青年団... 宗像町協議会...

宗像伝説 其の四十 沖津島防人日記... 今から百七十八年前の寛政三年...

宗像 菜 火

「おつたのであつた。両親を...」 「おつたのであつた。両親を...」

戦争は日清に前例の要を加え... 宗像町青年団... 宗像町協議会...

宗像 菜 火

「おつたのであつた。両親を...」 「おつたのであつた。両親を...」

戦争は日清に前例の要を加え... 宗像町青年団... 宗像町協議会...

今から百七十八年前の寛政三年... 宗像町青年団... 宗像町協議会...

暑中御見舞申し上げます... 津屋崎旅館組合... さめき荘 電話 津屋崎 140番... 正直亭 電話 津屋崎 45番... 玉の井 電話 津屋崎 48番... 津屋崎荘 電話 津屋崎 73番... 筑水館 電話 津屋崎 28番... 人気亭 電話 津屋崎 41番... 守田館 電話 津屋崎 25番

